

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ(1階 ハッピーユニット)		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	令和6年7月25日	評価結果市町村受理日	令和6年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191400015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年8月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に対し「ご自分でできることはご自分で、出来ない部分のみ職員が支援する自立支援ケア」を実践しています。日々の生活における自由と選択ご利用者様に対し「ご自分でできることはご自分で、出来ない部分のみ職員が支援する自立支援ケア」を実践しています。日々の生活における自由と選択の権利を尊重してその人らしい快適で穏やかな日々を送れるよう、サポートさせていただいております。

日課としては、身体機能向上や、精神面の安定を図るために、一日2回必ず運動をする時間を設けています。また、コグニサイズや棒体操、百人一首などの様々なレクリエーションを毎日用意し認知症の進行予防や日々楽しさを感じて頂くことにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症の進行予防と活動性の向上を目指し、毎日2回実施する体操以外にも多彩なレクリエーションの時間を設けている。法人で毎年開催する事例研究発表会でも、百人一首を活用した認知症進行予防の取組を報告した。どんなことなら参加でき、なおかつ「楽しめるか」を考える支援が、利用者一人ひとりの個性や思い・意向に寄り添い、引き出す介護につながっている。

コロナ禍以前から繋がりのあるボランティアの訪問継続や、新規ボランティアの受入れ、地域公民館の清掃活動参加など、地域との交流に積極的である。また、地域の福祉関係者とのネットワーク会議は、情報交換を超えた機会と捉え、他事業所の日々の支援の相談や他の取組を参考にし、職員間ではホーム支援に活かす検討等を行う等、支援の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
		51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
		52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
		53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)
		54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「快適で穏やかな生活を常に支援すること」を掲げ、認知症を患っても安心して慣れ親しんだ地域の中で生活出来る事業所を目指している。毎日朝礼で唱和をすることで理念の共有をしている。	理念の実践のために、身体機能の維持、認知症の進行予防に力を入れ、個々に合わせたきめ細やかな介護を行うことに注力している。ホーム会議やユニット会議、日常業務の中で理念や介護の方向性を確認し、職員に浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を利用し、事業所の取り組みを伝え、理解をして頂けるよう努めてきた。新型コロナウイルス感染が落ち着いた際に運営推進会議を再開するも、感染拡大の懸念から現在は再び書面での報告となっている。	ボランティアの受入れや地域公民館の清掃活動を継続している。季節になると鬼柚子が実をつけ、近所に配ることが恒例となっている。火災報知器が誤作動した際には近所の方が駆けつけてくれたというエピソードからは、良好な関係構築がうかがえる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えし、家族様、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂けるよう会議録に「意見書」を付け送付している。	感染症の状況に合わせ、対面や書面で会議を開催している。保健所も参加し、感染状況等の情報提供がある。転倒事故が多かった時期には、地域住民から転倒事故の認識について活発な意見交換があった。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域の介護保険係担当者や地域包括支援センター、民生委員の方の参加頂き、連携を深めている。	行政担当部署とは、訪問や電話などで、日常的に報告や相談を行い、連携している。行政や地域の他のサービス事業所が参加する地域ネットワーク会議(ケアリンク)に参加し、他機関との連携、情報交換や研修の機会となっている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。座学だけではなく実際に疑似体験をして好まないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。	身体拘束の研修で、職員自身が食事介助を受けたり、車いすに拘束される体験をし、拘束される苦痛を実際に体験することで、身体拘束禁止の意識向上に繋げることができた。毎月のミーティング時に、日々の支援に不適切ケアがないか振り返りをしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。座学だけではなく実際に疑似体験をして好まないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。	身体拘束禁止とともに、研修時や不適切ケアチェックシートを用いて定期的に話し合っている。とっさに出る言葉や表現の適切さを検討し、身体機能向上や負担軽減のための機器や用具を積極的に取り入れ、職員のストレスケアにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて定期的に行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様の要望の聞き取りに努めている。新型コロナウイルス感染等、面会禁止期間は電話や手紙にて様子をお伝えしていた。また「意見書」の内容をホーム内で周知し業務の改善に活かしている。	家族の面会時に、意見や要望を直接聞き取っている。また、運営推進会議の議事録送付時に添える意見書からも意見を集めている。利用者のホームでの様子を伝えるため、毎月のホーム便りと個別の写真やメッセージを載せた手紙を送付し、意見を出しやすい環境を工夫している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。また、全職員対象としたアンケートにより意見、提案を抽出している。	定期的な個人面談、法人が実施する職員アンケート、日常支援の中で意見を聞いている。エリアマネージャーが訪問した際には、職員が直接話をしたり相談できる仕組みが構築されている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。また定期的に面談を実施し、職員個々の思いを汲み取る努力をしている。	定期的な個別面談で、業務の目標や今後の希望、勤務継続に関わる相談事を把握し、就業環境の整備に繋げている。業務改善により、超過勤務はほとんどなくなり、体調や希望に応じたシフト調整や柔軟な勤務形態を実現している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対する補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。	キャリアパス、人事考課の仕組みがある。法人からもキャリアアップへのサポートがあり、資格取得支援や、業務に関する教育研修プログラムを提供している。軸がしっかりとした介護観を持つ人材の育成を目指し、管理者が中心となり、OJTに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	御嵩町のケアリンク、定期的に近隣事業所へ訪問をし情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症防止策のため一時中断期間もあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分でして頂き、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。疎通不可な方には本人本位であるようご家族様にも相談し、了解を得てケアプランに反映している。	定期的に意向を確認し、日々の生活の中で汲み取った希望や思いを支援に反映している。記録やノートを活用し、情報共有を図っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。	職員からは事前に個別ケアについての課題や対応策等の意見を募り、毎月のユニット会議で話し合いを行っている。介護計画は、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、更新している。具体的な希望や目標が達成できるように計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしていく。	電子システムの個別のフリーコメントにタグ付けし、記録の管理を行っている。連絡事項や利用者の情報共有の徹底を図り、申し送りノートを活用し、閲覧したことを確認している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。	利用者がホーム入居前から行きつけにしていた美容院と連携を図り、馴染みのサービスが継続できる支援を行った。また、地域のサービス事業者等と介する機会を活用し、困りごとの相談や対応方法の情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切に、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの主治医の説明を行い、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。	提携医の訪問診療は月に2回ある。専門の診療科への受診も、ホームで対応可能である。訪問看護師と、契約による看護師の訪問があり、24時間連絡相談ができる体制がある。看取り介護においてもスムーズな対応が可能となっており、連絡ノートを活用し情報共有を図っている	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に家族様や病院相談員から情報収集を行い、利用者様や家族様が退院後の生活に不安がないよう準備、調整するよう努めている。	入院時には病院に、アセスメントやホームでの生活状況を情報提供している。入院に必要な物品の準備や補充の支援も、必要に応じて対応している。家族や医療機関担当者から、入院中の状況や療養上の指示・助言を聞き、退院後の受け入れ準備を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごすかを見て相談している。又、重度化する前に将来的予測を行い、ご家族様に説明しホームとして出来る限りの支援を行っている。家族に看取りの意向があれば看取り介護を行っている。	看取りの指針を入所時に説明するが、状況の変化や時間の経過とともに、本人の状況や家族の思いも変化するため、折々に様子を伝えている。必要時には医師、家族、ホームで対応について相談し、介護計画を作成している。看取り後には、支援について振り返りの機会を設けている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお伝えしている。地域の福祉避難所となっている。	年2回、定期的に火災を想定した避難訓練を実施している。防災研修を行い、防災マップやBCP、備蓄品、備品等の確認を行っている。火災報知器が誤作動した際には、近所の方が心配して様子を見に来てくれたことから、地域との協力関係がうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。	入職時、またその後も定期的に接遇に関して学ぶ機会がある。利用者個々の世界を否定せず、寄り添うことを意識し支援にあたっている。プライバシーに配慮した声掛けや視線、表情に注意している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切に、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。	畑でとれた野菜の下ごしらえなど、できる人にはできる範囲で手伝ってもらっている。複数名の調理員を配置し、毎食手作りの食事はいつもおいしいと好評を得ている。おやつや行事のメニューには希望を取り入れたり、差し入れの果物が並ぶなど、楽しみの一つになっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせ食事での栄養摂取が困難な方には医師の指示のもと栄養補助食品を活用したり、水分量が少ない方は好まれる飲み物で無理なく摂って頂いている。また、義歯の調整等を行うなど個々に合わせた対応を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。	毎食後の口腔ケアは必要に応じて支援している。口腔内のトラブルがあれば、歯科医の訪問診療が受けられる。取り外した義歯は夜間は職員が預かり、洗浄や消毒を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアーに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。	調剤薬局の薬剤師が、配達される処方薬を利用者ごとにセットしている。服薬準備の役割が勤務帯で決まっており、服用時にはダブルチェックし、確実に服薬を支援している。薬剤情報は全職員が把握し、いつでも確認できるように保管している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。	家事作業の手伝いは、個々の能力やその時の気分で、できる時に促して参加してもらっている。レクリエーションの時間を毎日作り、百人一首や軽い運動等を行い、楽しく過ごせるよう日々工夫している。レクリエーションとは別に1日2回の運動の機会がある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様とスタッフで出かけている。今年度は実地し利用者様や家族様から好評を得た。	玄関先でしゃぼん玉をしたり、お茶を飲んだり、畑での野菜の収穫、近所の神社へ散歩に出掛ける等、戸外に出る機会を作っている。計画的な外出も再開し、いちご狩りでは甘い苺を口いっぱい頬張り、美味しい、また行きたいと喜ぶ姿を見ることができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っている。利用者様が家族様とお好みの物を一緒にお買い物されることは推進している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がそれぞれの場所でくつろげるよう、各々にソファを設置し日中思いのままの場所で過ごして頂き、季節の装飾を施している。	ホーム内の清掃は曜日、勤務帯毎に役割を決めて実施している。ホーム内は整理整頓され、浴室やトイレなども清潔に保たれている。レクリエーションの時間は笑い声や歌声が聞こえ、穏やかに心地よく過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しの配慮で自立した生活が送れるよう工夫し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ(2階 スマイルユニット)		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	令和6年7月25日	評価結果市町村受理日	令和6年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に対し「ご自分で行えることはご自分で行い、出来ない部分のみ職員が支援する自立支援ケア」を実践しています。日々の生活における自由と選択の権利を尊重してその人らしい快適で穏やかな日々を送れるよう、サポートさせていただいております。また、身体機能向上や、精神面の安定を図るために、一日2回必ず運動をする時間を設けています。日々の体調を観察し、必要な利用者様には足浴などのフットケアを毎日実施するなど、きめ細やかな支援に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191400015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年8月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「快適で穏やかな生活を常に支援すること」を掲げ、認知症を患っても安心して慣れ親しんだ地域の中で生活出来る事業所を目指している。毎日朝礼で唱和をすることで理念の共有をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症蔓延防止の防疫のため状況を見ながらボランティアの受け入れを再開している。 年1回、近隣の公民館の清掃活動に参加している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えすると同時に、家族様、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂けるよう、会議録に「意見書」を付け送付している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域の介護保険係担当者や地域包括支援センター、民生委員の方の参加頂き、連携を深めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。 座学だけではなく実際に疑似体験をして好ましくないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と併せて研修を行い、日常的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて定期的に行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様の要望の聞き取りに努めている。新型コロナウイルス感染等、面会禁止期間は電話や手紙にて様子をお伝えしていた。また、意見書の内容をホーム内で周知し業務の改善に活かしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。また、全職員対象としたアンケートにより意見、提案を抽出している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。また年4回、面談を実施し職員個々の思いを汲み取る努力をしている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対する補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	御嵩町ケアリンク、定期的に近隣事業所へ訪問し情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症防止策のため一時中断期間もあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分で頂き、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。疎通不可な方には本人本位であるようご家族様にも相談し、了解を得てケアプランに反映している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切にし、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの主治医の説明を行い、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に家族様や病院相談員から情報収集を行い、利用者様や家族様が退院後の生活に不安がないよう準備、調整するように努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごして頂くかを期を見て相談している。又、重度化する前に将来的予測を行い、ご家族様に説明しホームとして出来る限りの支援を行っている。家族に看取りの意向があれば看取り介護を行っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお願いしている。地域の福祉避難所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切にし、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせ食事での栄養摂取が困難な方には医師の指示のもと栄養補助食品を活用したり、水分摂取が少ない方は好まれる飲み物で無理なく摂って頂いている。また、義歯の調整等を行うなど個々に合わせた対応を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアーに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様とスタッフで出かけている。今年度は実地し利用者様や家族様から好評を得た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っている。利用者様が家族様とお好みの物を一緒に買い物されることは推進している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。 月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様がそれぞれの場所でくつろげるよう、各々にソファを設置し日中思いのままの場所で過ごして頂き、季節の装飾を施している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しの配慮で自立した生活が送れるよう工夫し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		